

# 校長室通信

令和6年7月16日号  
志免町立志免西小学校  
高良 祐治

先週は、個人懇談のために来校いただきありがとうございました。保護者の皆様からは、現在の学年になってからのお子さんの様子や担任への質問や要望などを伺い、担任からは、学級での学習や生活の様子をお伝えすることで、これからの指導のあり方などについて共通理解させていただく場となりました。まもなく夏休みになりますが、学校から離れ長い期間自分で過ごすことで育つ力があります。夏休みが明けて、充実感をみながら、再び始まる学校生活に期待感でいっぱいの子どもたちと再会できることを楽しみにしています。

## 自律と自立

夏休みは、子どもだけで自宅で過ごす時間が長くなると思います。気がつくとゲーム三昧、動画視聴三昧になってしまい、夜遅くまで起きていて、昼近くまでごろごろしている…。このような生活を夏休みという長い期間送ってしまえば、学校が始まってからの学習の姿などは期待できないものになってしまうのではないのでしょうか。

かといって、口やかましく「勉強なさい」「片付けなさい」「もう寝なさい」「早く起きなさい」など追いつけて生活させるのも、自分では何もできない子どもを育ててしまうことにつながります。

この時期になると、家庭教育に関するサイトでは「自分で『できる』子どもを育てるメソッド」「～することで子どもが伸びた！」といった特集がよく見られますが、すべての子どもに当てはまるわけではありませんし、子育てに王道はないのだと思います。

ただし、これまでたくさんの子どもたちの様子を見てきて、夏休み後に「伸びたな」と感じる子どもにはある傾向があるように思います。

それは、夏休みを利用して「どうしても達成したい目標」があって、それに挑戦し続けた経験をしているということです。自由研究で予想を確かめるために毎日観察を続けて、予想外の発見をしたり、テレビで何気なく見たハリーポッターの映画に関心を持ち、全巻読破したり、習い事のスポーツ少年団でレギュラーをつかむために、毎日練習に取り組んだりするなど、自分の関心があるものでいいと思います。ということは、周りが何と言おうと子どもがそれに取り組み続けるくらいの目標を見つける支援が大切だと言えそうです。

自分で決めた目標に向かって、粘り強く取り組み続けることは、自律した生活を送ることにつながり、

たとえ目標が達成できなかったとしても、それは自立につながっていくと思います。

自立心を育み、少しずつ自立させていく夏休みになることを期待しています。

## 安全な生活を

以前勤めていた学校で、低学年の子どもが母親のスマホでゲームをしているときに、いわゆる課金を数十万円してしまったことがありました。親としては、まだスマホを与えるには早いと思い、自分のスマホでゲームをさせていたようですが、カード情報も記録していたため、このような事態になったようです。

また本校でも、中高学年では、LINE などにおける悪口や仲間はずれなどのトラブルが起こっています。

これらのトラブルは、私たち大人が子どもの頃にはなかったトラブルですが、漫画雑誌の最後の方に載っていた睡眠学習枕やスパイカメラといった怪しいけど興味をそそられる広告の商品を購入して失敗したり、交換日記でグループ外の人の悪口を書いてしまったりグループから外されたりといった、昔もあったトラブルと構造的には同じです。ただし、現代のこのようなトラブルの恐ろしいのは、金額がとてつもなく大きくなることや一度書き込んでしまったことは取り消しができないということです。

個人情報はもちろん、自分が発信した情報も悪用されれば、決して消去できない負の情報として一生ついて回ります。夏休みという親の目が行き届きにくい期間のスマホやタブレットといった情報端末の取り扱いについては、家庭でしっかりとルールを確認し、節度を持って使えるようになってほしいと思います。

そのほかの事件事故にも十分気をつけて、充実した夏休みを過ごし、一回り成長できる熱い夏になることを期待しています。